

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

美術・工芸・デザイン専門教育の一層の充実を図り、造形文化の発展に貢献する日本一の専門美術高等学校

- 1 造形活動を通じて、造形文化の発展に寄与する「確かな学力」「表現力・プロデュース力」「企画・発信力」の育成
- 2 将来、美術・工芸・デザインの第一線で活躍し、芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェッショナルの育成
- 3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校として、造形教育の充実・振興に貢献し、「芸術・文化」の発展に寄与する

2 中期的目標

1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」「企画力・発信力」の育成

(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」「表現力・プロデュース力」「企画力・発信力」の育成に取り組む。

ア 1年次より、全員がタブレット端末(BYOD)のポートフォリオ活用等による系統的学習習慣を身に付けることで、基礎的な学力を向上させる。また、「学校経営推進費」採択により設置するプロジェクト(全HR教室)と連動させることで、「表現力・プロデュース力」「企画力・発信力」を飛躍的に向上させる。「学習動画」を活用し、予習・復習の自学自習の習慣を身に付けさせることで、苦手教科(数学・理科)の克服を図る。

イ 造形教育における圧倒的な知識・実技力を身に付けさせるとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業の拡充を図る。

ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行うことを通して、主体的・対話的で深い学びを充実させる。また、読書活動の促進により、言語活動を充実させる。

エ 日本の作品や伝統工芸、世界の作品に触れる機会を通して、それらが育んできた造形文化への理解を深める。また、教員の指導力向上のため校内研修、海外研修を充実する。

学校教育自己診断において「授業内容に興味・関心をもつことができる。」の肯定的回答(平成29年度78%、平成30年度84%、令和元年度80%)を、令和4年度には90%に近づける。

「発信力」の育成について、「学校経営推進費」採択により設置するプロジェクト(全HR教室)の活用も含め、卒業時にはすべての領域の生徒がICT機器を活用して、プレゼンテーションできる力を身に付け、造形表現力とともに言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えをプレゼンテーションできる能力に加え、他者の考えも認め、互いに尊重し合えることができる力を育成する。

タブレット端末(BYOD)、「学校経営推進費」採択により設置するプロジェクトにより、すべての授業(教科・科目)でICT活用を促進していく。

2 美術・工芸・デザインの第一線で活躍できる専門的職業人の育成

(1) 将来、芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェッショナルを育成する。

ア 高大連携、作家、企業、芸術団体との連携等の一層の充実を図るとともに、大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。

イ 1年次から進路ガイダンスを系統的に実施し、将来を見据えた具体的な進路目標の実現に至る道筋を明確にし、生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。進路指導の指標として、自から選択した進路希望の達成・満足度等を「進路情報等に関するアンケート調査(SNS)」にて検証し、進路指導の充実を図る。各年次に行うアンケート調査の「進路指導等に関する内容」において、満足度である肯定的回答(平成29年度89%、平成30年度92%、令和元年度93%)について、90%以上を維持していく。

また、進路への不安や学校生活での相談等に対する教育相談体制を充実していく。

ウ 国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者をはじめとする大学入学共通テスト受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。国公立大学10名程度を含む4年生大学進学者数100名程度を維持していく。

造形活動に意欲的に取り組ませるために、部活動への積極的な加入を促進し、複数部への加入による部活動加入率100%以上を維持していく。また、「高校展」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品を維持していく。令和4年度においても現在の水準(美術の大阪府代表)を維持する。

部活動指導や補習による、生徒・教員の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退庁日」「ノークラブディ」を確実に実施する。

3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割

(1) 府立学校唯一の専門美術高校、日本一の専門美術高校として、日本のセンター校としての役割を果たしていく

ア 令和2年度より、「全国美術高等学校協議会本部事務局校」となり、日本の専門美術高校の中心として、教育活動や美術大学との連携に役割を果たしていく。近畿・全国に向けて、情報を発信する。

イ 地域・外部連携事業、ボランティア活動等を通して、生徒に発表の喜びや社会貢献の大切さを理解させるとともに、教育活動の拡充を図る。

ウ 日本一の専門美術高校にふさわしい教育活動を展開するため、展示・展覧、施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。

校内展示や美術館鑑賞により、常に優れた作品に触れる機会を設ける。また、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流を推進する。令和4年度においても海外、国内の作品に触れる機会を、海外研修(イタリア・台湾)も含め5回以上実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成	<p>(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成に取り組む。</p> <p>ア 学力診断テストの活用等を通して、基礎学力の確実な定着を図る。</p> <p>イ 実技力の向上とICT機器の活用</p> <p>ウ 言語活動の充実</p> <p>エ 美術文化への理解</p>	<p>(1)</p> <p>ア 造形表現力の向上には基礎学力を向上させることが不可欠であり、家庭学習の強化も必要。難易度の異なる学力診断テスト（学力生活実態調査）学習強化週間等を通じて、自学自習の習慣を身に付けさせる。</p> <p>イ 造形活動に必要な「圧倒的な実技力」を身に付けさせるため、実技講習の充実を図るとともに、調べ学習等を積極的に採り入れる。タブレット端末(BYOD)、「学校経営推進費」採択により設置するプロジェクタ(全HR教室)の活用を中心にICT機器活用の促進を図り、「企画力・発信力」の向上を図る。「学校へ行くのが楽しい。」の評価を向上させる。</p> <p>ウ 読書活動等の促進により、言語活動を充実させる。生徒間の意見交換やプレゼンテーションの機会を拡充する。</p> <p>エ 国立国際美術館等の協力を得て、現代の作品、世界の作品、伝統工芸に触れる機会を拡充し、美術・文化への理解を深める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断における「授業内容に興味・関心をもつことができている。」を85%に近づける。(令和元年度は80%)</p> <p>イ・1・2年生は、授業のICT機器活用100%。3年生は、半数以上の授業での活用をめざす。学校教育自己診断における「学校へ行くのが楽しい。」を85%に近づける。(令和元年度は80%)</p> <p>ウ・学校教育自己診断における発表機会の肯定的回答85%を維持する。(令和元年度は88%)</p> <p>エ・海外、国内の作品に触れる機会を増やす。(令和元年度は15回以上)</p>	
2 美術・工芸・デザインの第一線で活躍できる専門的職業人の育成	<p>(1) 芸術先進国「日本」の創生に寄与するバイタリティのあるプロフェSSIONALを育成する。</p> <p>ア 高大連携等の充実を図るとともに、大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。</p> <p>イ 生徒一人ひとりに応じた適切な進路指導を組織的に行う。</p> <p>ウ 国立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施する。「高校展」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品を維持していく。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 高大連携等の充実、大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。</p> <p>イ 生徒一人ひとりに応じた適切な進路指導を組織的に行う。進路実現に向けた進路指導体制を強化する。教育相談体制を刷新し、教育相談・支援の充実を図る。</p> <p>ウ 国立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施する。進路指導の成果を多角的に把握し、生徒の希望の進路実現につなげる。「高校展」や「芸文祭」等の高校生向け公募展はもとより、大学・専門学校や企業などの外部団体が主催するコンクールに積極的に出品・参加し、意欲・実技力の向上を図る。部活動指導や補習による、生徒・教員の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・大阪市住之江区との連携も継続していく。「大和川陶板ロード」も拡充していく。</p> <p>イ・学校教育自己診断における「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」90%以上を維持する。(平成29年度89%、平成30年度92%、令和元年度93%)</p> <p>・教育相談体制を刷新し、SCと連携した支援・相談体制の拡充と、新たな「カウンセリング室」の整備を行う。学校教育自己診断における「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生がいる」を、70%以上にする。(令和元年度は65%)</p> <p>ウ・学校教育自己診断における「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」を、90%以上にする。(令和元年度は87%)</p> <p>・「定時退庁日」、「ノークラブディ」を確実に達成する。</p>	

<p>3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割</p>	<p>(1) 府立学校唯一の専門美術高校、日本一の専門美術高校として、日本のセンター校としての役割を果たしていく</p> <p>ア 教育活動や美術大学との連携にセンター校としての役割を果たし、近畿・全国に向けて、情報を発信する。</p> <p>イ 地域・外部連携事業、ボランティア活動等を通して、生徒に発表の喜びや社会貢献の大切さを理解させるとともに、教育活動の拡充を図る。</p> <p>ウ 展示・展覧、施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。 国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 美術専門学科設置校としての教育資源を活かした活動を全国に向けて発信し、日本の美術教育の振興を図るとともに、校内・外の展示を充実する。 全国美術高等学校協議会本部事務局校として、全国大会（秋田大会または代替の web 大会）の運営を行うとともに、全国の美術専門高校の支援を行う。</p> <p>イ 本校の特色である地域・外部連携事業、ボランティア活動等を通して、生徒に発表の喜びや社会貢献の大切さ、達成感を与える。</p> <p>ウ 専門施設設備の維持管理、更新と充実により、生徒の造形活動の伸長につなげる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校 HP の更新を維持し、満足度を向上する。教育情報の発信、保護者評価を 85% に近づける。(令和元年度は 80%) 全国美術高等学校協議会秋田大会または代替の web 大会を円滑に運営する。</p> <p>イ・地域・外部連携事業の指標となる学校教育自己診断における「この学校には、他の学校にない特色がある。」、98% を維持していく。(令和元年度は 98%)</p> <p>ウ・「港南展（卒業制作展）」を始めとする展示・展覧を継続していくために、計画的に施設設備の維持更新を行い、造形活動の環境改善を進める。</p>
--	---	---	---